

学校・家庭・地域の協働と 教育コミュニティづくり



関西学院大学 教育学部
濱元伸彦

本日の内容

自己紹介
現代の子どもと地域社会の課題
地域の教育力
教育コミュニティとは 協働とは
はぐみネットや生涯学習ルームを生かした
教育コミュニティづくり
「つなぐ」人の役割

自己紹介

- ・大阪府泉佐野市出身
- ・大阪大学・大阪大学大学院(池田寛先生との出会い)
(教育コミュニティづくりに関する大阪府各地での調査)
- ・アメリカ留学(ラトガーズ大学大学院)
- ・松原市・学校支援地域本部コーディネーター
- ・貝塚市 中学校教諭
- ・2015年度より 京都造形芸術大学 教員
- ・2020年度より 関西学院大学 教員
- ・大阪市在住 2児の父親

私の原点① 子ども時代の地域社会体験



私の原点②: 地域でのさまざまな コーディネーターとの出会い



貝塚市 北出昭さん



松原市 佐久間信行さん

コーディネーターの語る地域の「原体験」

- ・「子どもの頃、子ども会でキャンプやったり、釣りやったり、なんでこんなに面白いこといっぱいさせてくれるんやろうって思った。その時の体験を子どもにも味あわせたい」(北出さん)
- ・「故郷の鹿児島で、子どものとき地域の中で子どもや大人が集まる場がいっぱいあって、そういうつながりの中で育ってきた。天美の地域でそういったつながりを復活させたい」(佐久間さん)

コーディネーターの語る地域の「原体験」

・「子どもの頃、子ども会でキャンプやったり、釣りやったり、なんでこんなに面白いこといっぱいさせてくれるんやろうって思った。その時の体験を子どもにも味あわせたい」(北出さん)

※ みなさんの子ども時代の「地域の原体験」は、どのようなものですか？ 印象に残っている活動や人との出会いなどを思い出してみてください。

現代の子どもと地域社会の課題とは

人にとってのコミュニティとは



京都大学総長 山極寿一(やまぎわじゅいち)さん

人(霊長類)はオンラインの情報だけでは信頼感を感じにくくできている

信頼感を感じるには、視覚や聴覚だけでなく、五感全体を使って、つながりを感じる必要がある

信頼感をもてる人のつながり(群れ)は1人あたり100~150人程度である

(ポプラ新書・2020年刊行)

集団の規模とコミュニケーションの関係

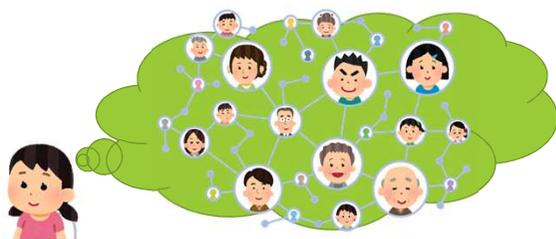
	コミュニケーション	例
10~15人	言葉を交わさずに意思疎通できる集団	サッカーやラグビーのチーム
30~50	顔と性格が分かり一致して動ける集団	小・中学校のクラスの人数
100~150	顔と名前が分かる信頼のおける仲間	年賀状を書く時に顔が浮かぶ数

(日本経済新聞2016年4月28日・山極氏のオンライン記事より抜粋)

100人~150人が「顔と名前が分かる人」の限界だとして、現代の子どもたちにとって、その100人~150人はどのような人の構成なのでしょう。その中に、親以外の地域の大人はどれくらい含まれているのでしょうか。

重要なポイント

コミュニティの基本は、「顔と名前が分かる」信頼のおける人間関係(つながり)

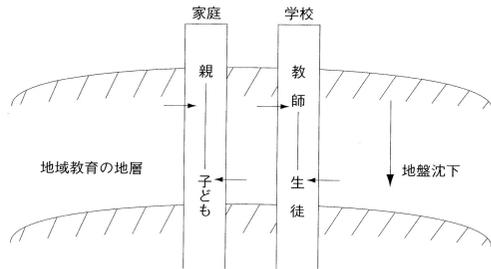


子どもと近所に住む地域の大人との関わり

	「よくされる」+ 「ときどきされる」	「あまりされない」+ 「まったくされない」
近所の人に道であった時に声をかけられる	74.5%	22.2%
悪いことをした時、近所の人にしかられたり注意される	17.9%	78.5%
良いことをした時、近所の人にほめられる	45.8%	51.3%
近所の人と一緒に遊んでくれる	22.9%	72.0%

日本総合研究所
「地域の教育力に関する実態調査」(平成18年)より作成

教育コミュニティづくりが求められる背景



子ども・家庭をつなぎ支える地域の教育力の地盤沈下
→ 学校と家庭が教育の課題を背負いこむ状況に
→ 子どもの育ちにおける課題

特に、子どもや家庭の立場から 課題だと思われること

- ・ 家庭外でのさまざまな体験・遊びの不足
→ 非認知能力の課題
- ・ 地域社会における人間関係の狭まり、所属意識の希薄化
- ・ 学校・家庭それぞれの孤立と緊張感

非認知能力とは



地域の教育力の役割とは

福岡県田川市の
学力生活調査の分析より

福岡県田川市の学力生活調査の 分析より (2016年実施)

仮説

地域の大人からの
見守られ感
(包み込まれ感)

肯定的な
影響

子ども

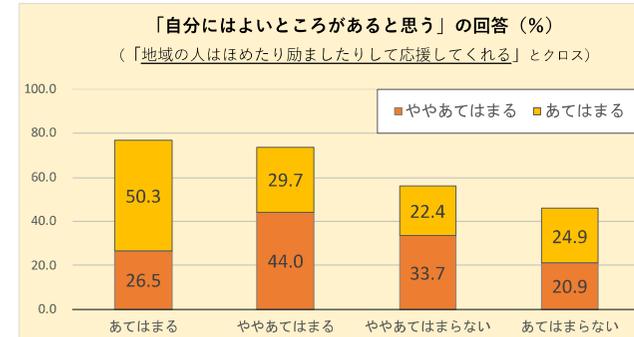
自尊感情
自己肯定感

非認知能力



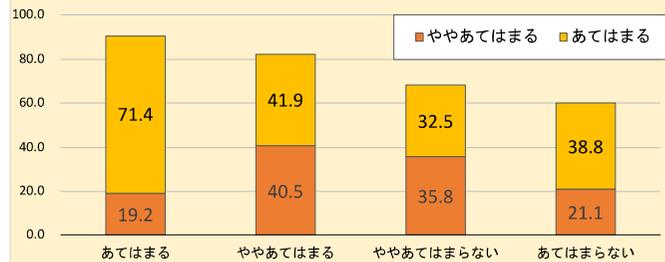
地域の大人からの「見守られ感」は 子どもの「自己肯定感」を支える①

(福岡県田川市での小・中学生対象のアンケート2016より)



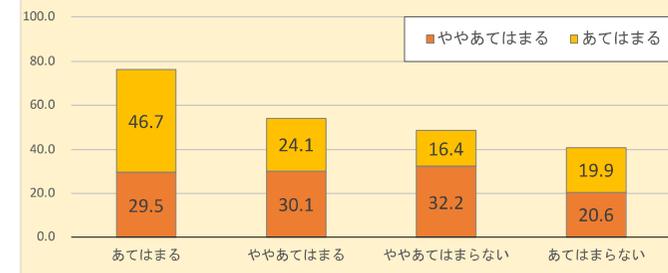
地域の大人からの「見守られ感」は 子どもの「心のしなやかさ」を支える①

「失敗しても、次がんばろうと思う」の回答 (%)
(「地域の人はほめたり励ましたりして応援してくれる」とクロス)



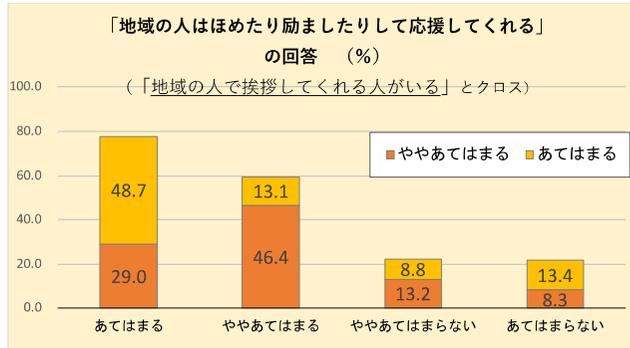
地域の大人からの「見守られ感」は 子どもの「心のしなやかさ」を支える②

「イライラしても気持ちを切り替えられる」の回答 (%)
(「地域の人はほめたり励ましたりして応援してくれる」とクロス)

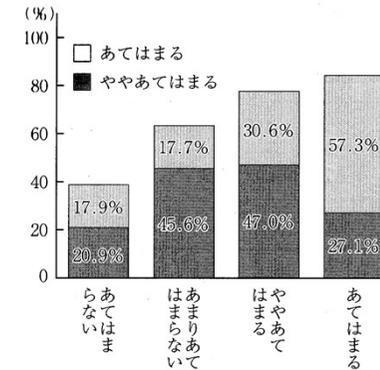




地域の大人からの「見守られ感」は子どもと地域の接点から生まれる

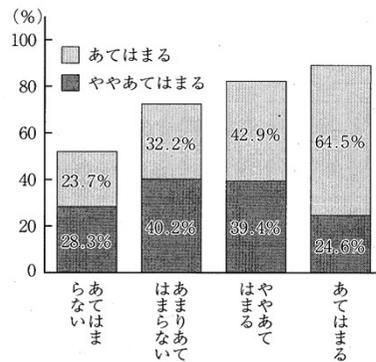


「授業で学習したことは社会に出た時に役立つと思う。」の中学生の回答パーセンテージ



「地域の人であいさつしてくれる人がいる」((a)地域①)の回答により分類

「授業で学習したことは社会に出た時に役立つと思う。」の中学生の回答パーセンテージ



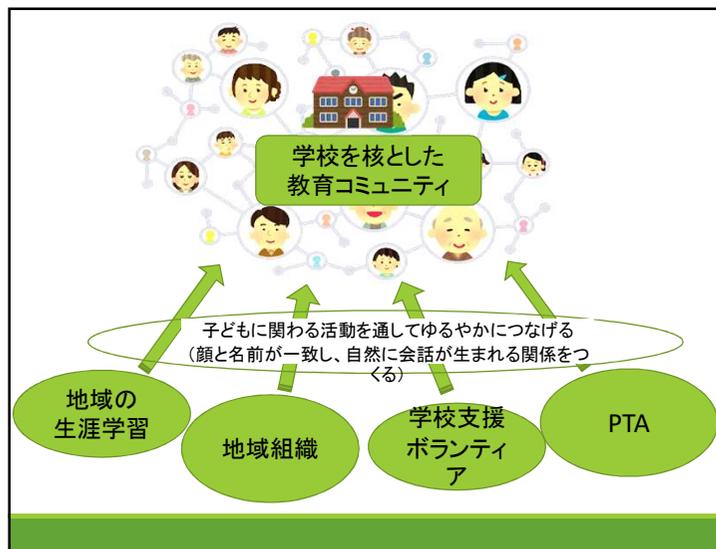
「地域の人、ほめたり励ましたりして応援してくれる」((b)地域②)の回答により分類

地域の教育力の役割

- ・子どもの自己肯定感や非認知能力(感情調整力や前向きに課題に取り組む力など)を支える
- ・子どもが「学校で学ぶことの意味」を実感し、学ぶ意欲を支える(子ども自身の生涯学びつづける力)
- ・地域の一員であるとの意識を高める

大事にしたいポイント

学校と地域が協働して、子どもを取り巻く地域の大人との関係を築いていくことは、子どもたちの自己肯定感や非認知能力の成長を支え、学校などで学ぶ力の土台を築くことにもつながる。



教育コミュニティとは？ 協働とは？

教育コミュニティとは



教育コミュニティとは、「学校と地域が協働して子どものことを考え、具体的な活動を展開していく仕組み、そして、そこでつくられる新たな人のつながり」

教育コミュニティの担い手: 教員・地域住民・保護者・行政関係者・NPOなど

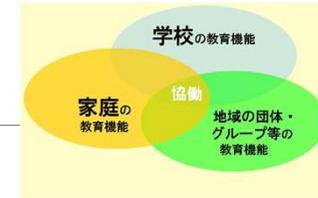
「ともに頭を寄せ合い子どもたちのことを考え、いっしょに汗を流しながら、さまざまな活動に取り組むこと」(協働)がその基本の形

学校を核とした教育コミュニティづくりの意義

- ・学校を核とすることで、すべての子どもに地域の教育力が伝わりやすくなり、その成長を支えられる。
- ・また、教育コミュニティづくりの活動を通して、子どもたちの学校教育の内容もより豊かに。また、家庭・地域のつながりも広がる。 → 「協働の文化」



協働とは？



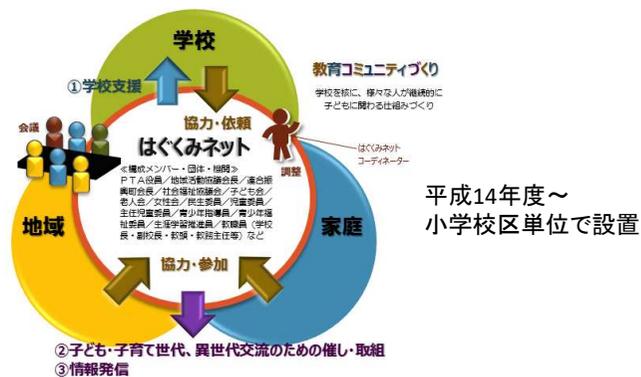
- ・連携と協働の違い

学校・家庭・地域の役割はもちろん異なり、それぞれが役割を果たし連携していくことは重要。

では、連携と協働は何が異なるのか？

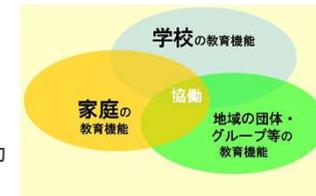
協働の特徴：共に子どもに関わることで、価値やヴィジョンを共有し、「協働の文化・雰囲気」と呼べるような一体感を生み出している。

大阪市の取り組み：はぐくみネット



大阪府の取り組み： すこやかネット(地域教育協議会)H12年～

1. 連絡調整機能
2. 地域教育活動の活性化
3. 学校教育活動の支援・協力



現在、府内の教育コミュニティづくりは、学校支援地域本部事業、放課後の居場所づくりや家庭教育支援などの事業、地域の青少年育成活動などとつながりながら、各校区に応じたスタイルで展開されている

泉大津市 三中ネット「星空観察会」



池田市 石橋中学校区「土曜寺子屋(どてら)」



摂津市立味舌小学校「小学校算数・九九きき隊」



地域のボランティアの方による、小学校2年生の児童の九九の暗唱を聞く活動。昼休みに次々と子どもがやってくる。

松原市 松原第六中学校区「笑顔・夢・ふれあい祭」



次世代の地域の担い手を育てる取り組み

○富田林市 明治池中学校区 「すこネットクラブ」

(次世代ボランティア人材育成事業)

・中学校区に住む、ボランティアリーダーをめざす小学生から大学生で構成。

(メンバーは30名程度)

・地域清掃活動、地域のふれあい夏祭り、歳末たすけあい募金、防災訓練などに運営スタッフとして参加



教育コミュニティづくり の持続・発展のポイント

すこやかネット調査の概要

質問紙調査

○ 実施期間 平成30年1月5日～5月14日(回収分)

○ 調査回答 27市町260名(内学校関係者125名、地域関係者132名、所属不明3名)回答学校区数118校区 (回答率28.9%)

訪問調査

○ 実施期間 平成30年8月～10月

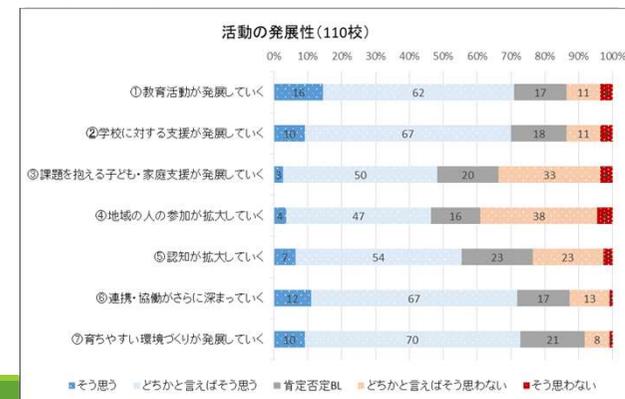
○ 訪問対象 大阪府内の7つの校区に訪問、関係者へのインタビュー

グループインタビュー

○ 実施期間 平成30年8月～10月

○ 調査対象 地域コーディネーターの方3名にグループインタビュー

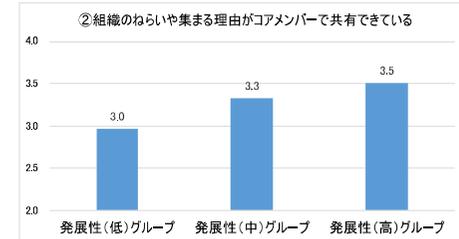
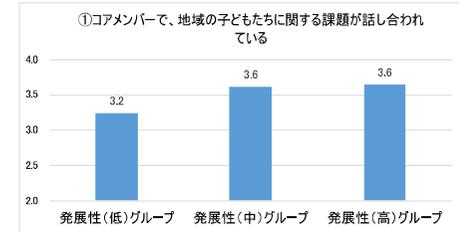
今後5年間のすこやかネットの活動の発展性



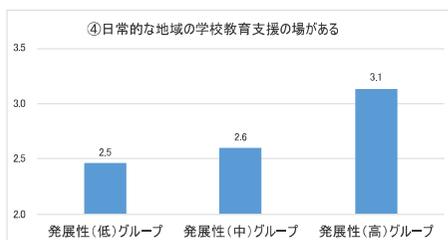
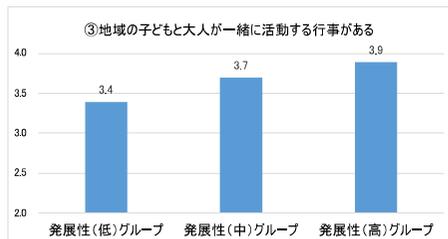
今後5年間のすこやかネットの活動の発展性を尺度化

項目(%は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)

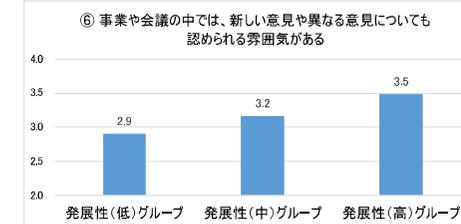
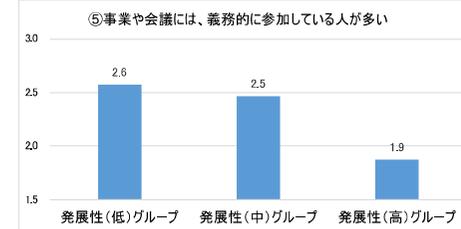
- ①教育活動が発展していく 78%
- ②学校に対する支援が発展していく 77%
- ③課題を抱える子ども・家庭支援が発展していく 53%
- ④地域の人の参加が発展していく 51%
- ⑤(校区における)認知が拡大していく 61%
- ⑥学校と地域の連携・協働がさらに深まっていく 79%
- ⑦子どもが育ちやすい環境づくりが発展していく 80%



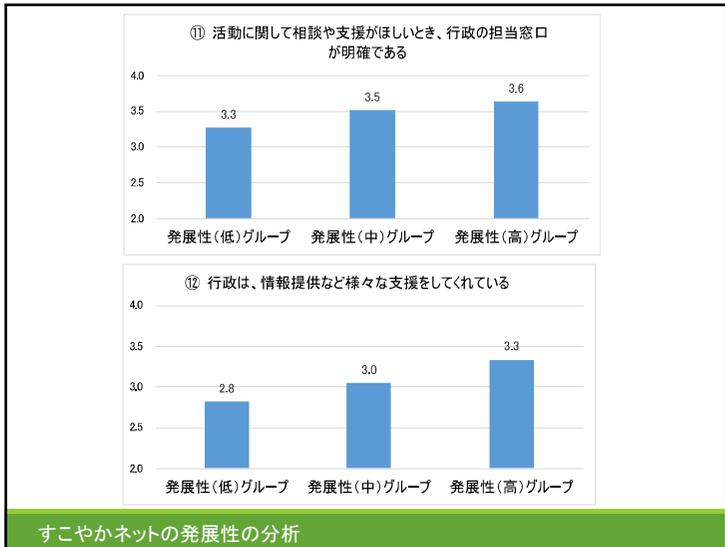
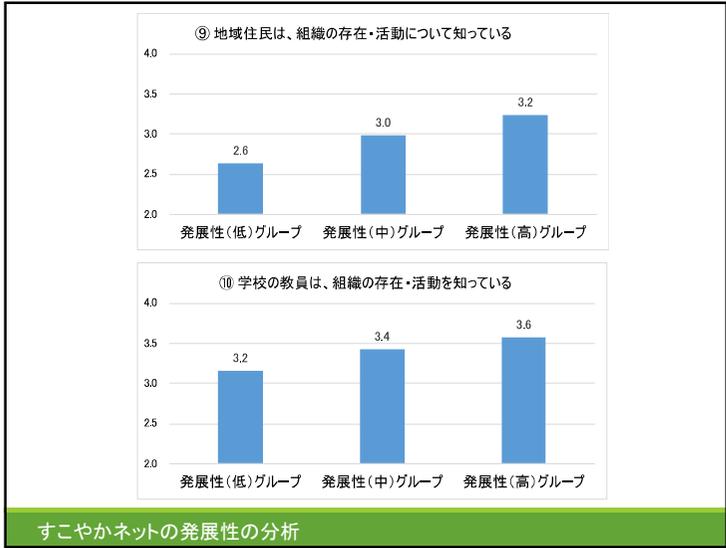
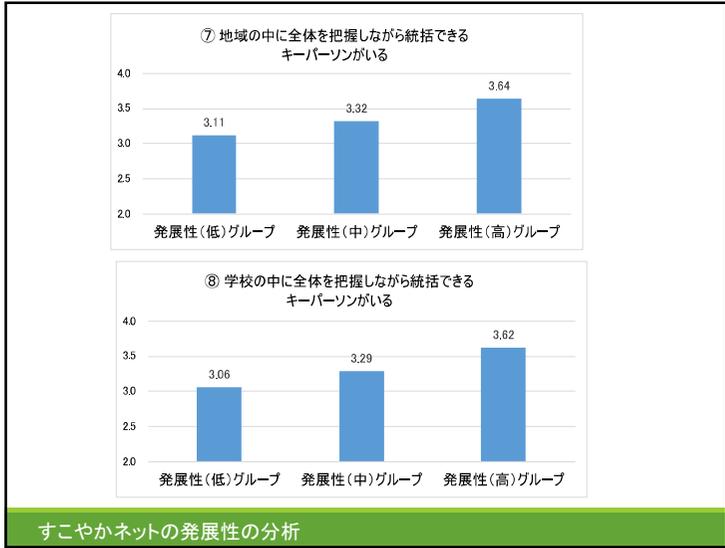
すこやかネットの発展性の分析



すこやかネットの発展性の分析



すこやかネットの発展性の分析



すこやかネットを通じた教育コミュニティづくりの持続発展に関わる要素(質問紙調査の結果より)

①組織のねらいの共有、子育て・教育の課題の共有

コアメンバーが、教育コミュニティづくりとそれを支える組織としてのすこやかネットの目的を共に理解している。また、行事の運営だけではなく、教育コミュニティづくりの焦点である子ども、子育て・教育について課題を共有する機会をもっている。

すこやかネットを通じた教育コミュニティづくりの持続発展に関わる要素(質問紙調査の結果より) (続き)

②地域の大人と子どものふれあい(学校支援活動を含む)の拡大と日常化

一定の継続性をもった、子どもと地域の大人のふれあいの場をつくっている。また、その活動を学校内部にまで(学校支援活動など)浸透させ、子ども、地域の大人、教員のつながりをより広げている。

すこやかネットを通じた教育コミュニティづくりの持続発展に関わる要素(質問紙調査の結果より) (続き)

③多様な意見が生まれる活発な会議の運営

多様な意見が出やすい会議の雰囲気づくりやコミュニケーションの方法を考えている。また、コアメンバーのインフォーマルな交流をうまく取り入れながら、よりメンバーが自発的に参加できるような工夫を行っている。

すこやかネットを通じた教育コミュニティづくりの持続発展に関わる要素(質問紙調査の結果より) (続き)

④学校・地域のキーパーソン(コーディネーター)の存在と連携

学校、地域のキーパーソン(コーディネーター)の役割が尊重されている。また、各校区で両者が円滑なコミュニケーションをとって連携し、組織の活動を通じて参加者が広がっている。

すこやかネットを通じた教育コミュニティづくりの持続発展に関わる要素(質問紙調査の結果より) (続き)

⑤学校・家庭・地域への活動の広報による認知の拡大

さまざまな広報手段を用いて、組織の活動やその意義、教育コミュニティづくりそのもののねらいなどを学校、家庭、地域に周知させている。特に、学校、地域のキーパーソン(コーディネーター)は、学校関係者・地域関係者らに活動の様子や意義を分かりやすく伝え、情報の流通を図っている。

すこやかネットの訪問調査より

活発な校区の特徴（7校区でのインタビューより）

- ① 子どもの声にふれる機会、および、
教育・子育ての課題を共有する機会の存在。
- ② 子どもを学校・地域と一緒に見て関わる活動、
また、その様子を語りあう場の存在

すこやかネットの訪問調査より

活発な校区の特徴（7校区でのインタビューより）

- ③ 組織の垣根をこえた「仲間づくり」「交流」の工夫
- ④ 地域の新たな担い手の参加と育成の仕組み
（学校応援団などボランティア組織）
（子どもたちのボランティアリーダー育成）

はぐくみネットや 生涯学習ルームを生かした 教育コミュニティづくり

大阪市の取り組み：はぐくみネット



平成14年度～
小学校区単位で設置

- ② 子ども・子育て世代、異世代交流のための催し・取組
- ③ 情報発信

はぐくみネットのねらい

...地域社会の共有財産である学校を核に、学校教育支援の取り組みを進め、地域社会で様々な人が継続的に子どもに関わるしくみをつくり、人と人とのつながりによって子どもをはぐくんでいくという「教育コミュニティ」をつくることをめざして、市内の小学校区において、「小学校区教育協議会 ― はぐくみネット」が設置されています。

生涯学習ルーム事業



小学校を拠点とした地域住民の生涯学習活動促進の事業（平成元年～）。

公立小学校の中に、生涯学習の拠点が設置されているという自治体は少なく、大阪市のユニークな取り組みである。

学校教育の中での学社融合の取り組み



千葉県習志野市の秋津小学校の中にある「コミュニティルーム」を拠点に、地域住民が集まり、子どもたちとともに交流する姿がいきいきと描かれている。

特に、父親たちが中心となり、学校の中で木工やビオトープづくりを子どもたちとともにやるなどの取り組みが行われている。

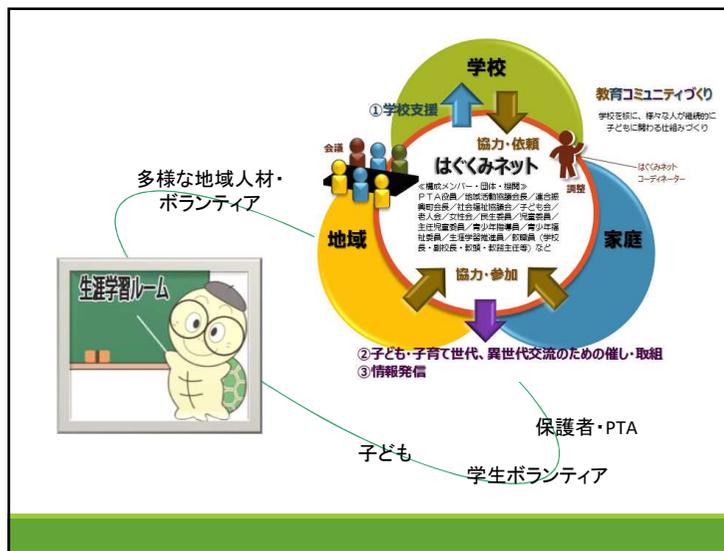
学校教育の中での学社融合の取り組み

大阪府の貝塚市立北小学校にある「ふれあいルーム」

地域住民の生涯学習活動および校区福祉委員会の活動拠点となっている。

また、ふれあいルームの活動に参加する地域の大人と、小学校の子どもとのつながりが、学校の教育活動の中にも数多くつくられている。





加美ふれあい広場 (平野区・加美小学校土曜授業) のご紹介!

2018年11月10日(土)、推進員研修の見学会で平野区加美小学校の土曜授業「加美ふれあい広場」を訪ねました。地域の方々やさまざまな団体を講師に迎え、普段経験することのない「本物にふれる」体験型学習を行います。取り組みがはじまって今年で16年。当初から関わっておられる生涯学習推進員の鳥居輝乃さんは、「さまざまな工夫を重ね、これまで続けてこれました。学校の理解、そして、地域の協力のもと、どんどん充実してきました」と話されます。その様子を一部ご紹介いたします。

みんなの「学び」体験

「タオル人形教室」

「ろう織工教室」

「ごみと社会教室」

「稲穂教室」

「竹組工教室」

「郷土教室」

「地車(だんじり)教室(正覚寺)」

「地車ばやし教室(細田町)」

地元の保存会メンバーによる、地車の実演と体験。やさしく教えてくれるお兄ちゃん・お姉ちゃん、カッコいいですね!

「伝承遊び教室」

「パルーンアート教室」

「歌声教室」

「わたの体験教室」

「人形劇教室」

スタートル新聞 第7号よ

WATCH! うおっち! 「生涯学習まなぶくんデー」

住之江区住之江小学校

「生涯学習まなぶくんデー」とは?

学校の授業の一環として、生涯学習ルームや地域の皆さんと一緒に作る土曜授業で、年に複数回開催され、今年で5年目を迎えます。その取り組みの様子を取材してきました。8時半の集合時間になるとスタッフの方々が続々と集合され、その数なんと92名!今年も住之江区長も見学に来られました。今回開催される11教室の内、7教室が生涯学習ルームからの教室で、その他にも大阪府レクリエーション協会、ボーイスカウト、地域緑化推進リーダーの皆さんと、小学校の先生による教室がありました。

2018.1.13(土) 「生涯学習まなぶくんデー」プログラム

- ・バンド「SOS」 ・ソフトバレーボール・住之江第九
- ・ピンポンクラブ ・子ども絵本を楽しむ会「ひびよ」
- ・ふれあい園芸講座(大根抜き) ・布ぞうり講座
- ・木の葉で作品づくり ・紙バックトンボ飛ばし
- ・社交ダンス ・ボーイスカウト (全11教室)

音楽室では「住之江第九」の皆さんによる合唱体験がありました。明るく元気な歌声で思わず笑顔になります。アニメの主題歌や童謡など親しみやすい曲から始まり、「第九」では子どもたちも舌を駆使しながら、一生懸命ドイツ語の発音に挑戦しました。

「ふれあい園芸講座」では皆で土こしと、9月に種まきをした大根の収穫体験をしました。菜園の土には、天王寺動物園の協力で動物の糞や食べ残しをリサイクルした「サナナ堆肥」が使われています。

スタートル新聞 第5号よ

WATCH! うおっち! ルーム紹介

都島ウクレレ倶楽部「みやれレ」

都島区桜宮小学校生涯学習ルーム

2019年5月25日(土)、桜宮小学校で活動する都島ウクレレ倶楽部「みやれレ」の教室にお邪魔してきました。

午後4時、グラウンドに面した教室からやさしいウクレレの音色が流れてきます。扉を開けると真っ赤なTシャツのみなさんが迎えてくれました。今年「みやれレ」が誕生して10周年。その記念Tシャツだそうで、みんなで袖を通すのは今日で3回目だとか。演奏の合間にベテランメンバーのお話を聞きました。

(メンバーがとても多いです)

- メンバーは30代から70代の約20名。ルームはたいてい女性が多いけど、ここは男女のバランスがいい。やってみると時間感覚もいいのかも。土曜日の15:30~17:00。終わってからの交流(宴会?)もすごく楽しい。
- (お父さん、初め忘れられちゃっけは?)
- きっかけはいろいろ。ルームのフェスティバルで演奏聞いて興味を持った人や地域の回覧板を見て来てくれたり、ウクレレを弾きながら歌うたう「弾き語り」やから、もう必死。笑顔でなんかないでさへ。私らの演奏は、「カンペキ!」とかじゃないから、逆に、新しい人が入りやすいと思う(笑)
- (演奏中のみなさんの真剣な顔と、1曲弾き終わる度にほじけるトークと笑顔がステキ♪)
- 聴きやすいようにどんどん新しい曲に挑戦します。今は「優しいあの子」とか、連曲やアレンジは、2人の世話役さんがみんなの意見をまとめてやってくれてるんで、弾きにくいコードもやさしくアレンジしてくれて、とっても助かります!
- 「東京アザウキ」「川の流れるように」なんかは、ウケがいいですよ
- もととは、区民センターのウクレレ教室からスタートしたんです。その後、地域の生涯学習推進員さんに声を掛けてもらって、桜宮小学校に場所を移して、今に至ります。
- (参加されて3年目のメンバーにもお話をうかがいました)
- 私は他の方に比べたら最近入っただけなメンバー(笑)。当時

スタートル新聞 第8号よ

大事にしてほしいキーワード

「つなぐ」

学校支援活動の事例: 大阪市立東三国中学校 (給食の食器回収、図書室サポート)



校区として400人のボランティアが登録され、毎日、昼休みに学校のサポートに来られる。昼休みの生徒の様子もより落ち着いたという。



来てくれた皆さんを毎日SNSでアップ

→ 生徒も様々な機会に地域のボランティアに出かける。ボランティアに来てもらい、でかけるという積み重ねにより、生徒たちの「地域に応援されている」「自分たちも地域の一員」という意識が強まっている



「つなぐ」人の役割

- ・教育コミュニティづくりの理念を意識し、校区内の協働が進展するよう取り組む。
- ・子どもをとりまく人のつながりや教育活動が豊かになるよう、学校や地域の関係者とじっくりと話し合い、必要な調整を行う。
- ・学校や地域の教育活動、保護者間のコミュニケーションが活発になるよう支援し、人のつながりを密にする。また、新たなアイデアの発掘や共有を手助けし、意見の交換をファシリテートする。
- ・大人の学び・活動と子どもの学びをうまくつなぐ



「つなぐ」上での実践上のヒント

- ・学校・地域のいろいろな人の子どもや教育に対する思いを聞き、いろいろな場で、それを紹介する。
- ・どんな地域にも思いのある人、「人財」はいる。そうした人の発見・出会いを喜びとし、その人をうまく引き入れる。
- ・それぞれの学校・地域の特色や持ち味を大切にする。
- ・ピンチをチャンスに。すべては子どもたちのため。できる活動から、つながりやすいところから、進めていく。

講義は以上です。

みなさんの校区の教育コミュニティづくりの
発展に役立てば幸いです。

ご参加、ありがとうございました。